

新選創作童話 18

せんせい
ペイちゃんとマリエ先生

服部公一・作／鈴木義治・絵



著者紹介

はつ とり こう いち
服 部 公 一

1933年山形県に生まれる。作曲を
中田喜直に師事。64年アメリカに
留学しミシガン州立大学を中心に
地域社会の音楽を研究。65年日本
レコード大賞童謡賞受賞。現在作
曲家音楽評論家としてテレビ新聞
雑誌などで活躍。童謡曲集『おじ
さんの子守歌』著書『あなたとく
らしと音楽と』などがある。

現住所 〒 107 東京都港区赤坂 6-10-45
ビヲ赤坂601

913

服 部 公 一

ペイちゃんとマリエ先生

国土社 1972

78P 21cm×19cm (新選創作童話 18)

基本カード記載例

画家紹介

すず き よし はる
鈴 木 義 治

1913年横浜に生まれる。川端画学
校卒。宮本三郎に師事。画家。

1954年二科会出品受賞。その後ひ
きつづき炆玄会、三軌会に出品受
賞。その後、在野活動にはいる。
『コタンの口笛』で、はじめて出版
美術の仕事をしてかけ今日に至る。
その風格のあるユニークな画風は
児童出版美術界においてもきわめ
て評価が高く、毎日出版文化賞、
サンケイ児童出版文化賞、小学館
絵画賞を受賞。

現住所 〒 235 横浜市磯子区中原
4-24-20

©新選創作童話 18 ペイちゃんとマリエ先生

〈検印廃止〉

初版発行 1972年4月10日 3版発行 1976年9月25日 印刷 株式会社厚徳社

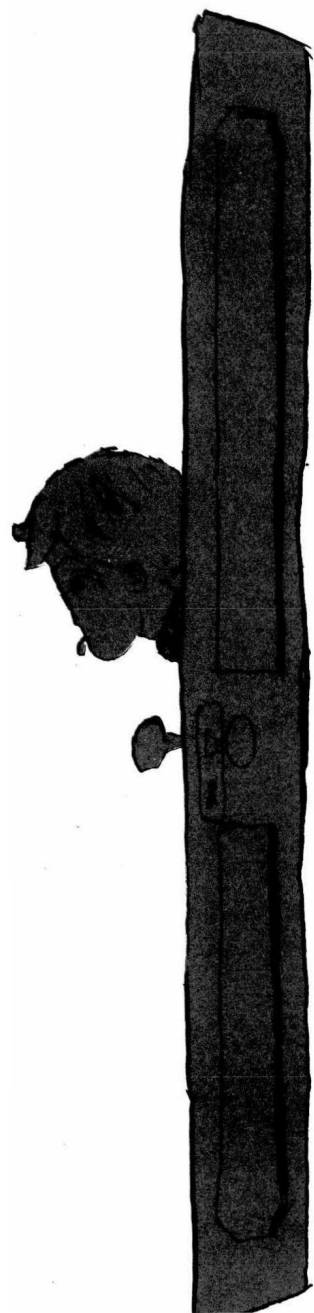
*著者 ^{はつ とり こう いち} 服 部 公 一 *発行者 長宗泰造 *発行所 株式会社国土社
東京都文京区目白台 1-17-6 〒 112 電話 (943) 3721(代) 振替 東京6-90631

乱丁・落丁はおとりかえします

ペイちゃん^{せん}とマリエ^{せい}先生

服部公一・作

鈴木義治・絵



the 1990s, the number of people in the world who are under 15 years of age is expected to increase from 1.1 billion to 1.5 billion.

As the world's population grows, the demand for food and other resources will increase. This will put pressure on the environment and on the world's resources.

One of the most serious threats to the world's resources is the depletion of the ozone layer. The ozone layer is a thin layer of gas in the upper atmosphere that protects the earth from the sun's harmful rays.

The ozone layer is being depleted by the release of certain chemicals, such as chlorofluorocarbons (CFCs), which are used in a variety of products, including refrigerators and air conditioners.

The depletion of the ozone layer is a global problem that requires the cooperation of all nations. The United Nations has established the Montreal Protocol, which is an international agreement to phase out the production and use of CFCs.

The Montreal Protocol has been signed by over 100 countries, and it is hoped that it will lead to the protection of the ozone layer and the preservation of the world's resources.

Another major threat to the world's resources is the depletion of the world's forests. Forests are a vital part of the environment, and they provide a wide range of benefits to humans and other animals.

Forests are being depleted at an alarming rate, and this is due to a variety of factors, including logging, agriculture, and urban development.

The depletion of the world's forests is a global problem that requires the cooperation of all nations. The United Nations has established the World Forest Conference, which is an international agreement to protect the world's forests.

The World Forest Conference has been signed by over 100 countries, and it is hoped that it will lead to the protection of the world's forests and the preservation of the world's resources.

Another major threat to the world's resources is the depletion of the world's fisheries. Fisheries are a vital part of the environment, and they provide a source of food and income for many people.

Fisheries are being depleted at an alarming rate, and this is due to a variety of factors, including overfishing, pollution, and habitat destruction.

The depletion of the world's fisheries is a global problem that requires the cooperation of all nations. The United Nations has established the World Fisheries Conference, which is an international agreement to protect the world's fisheries.

The World Fisheries Conference has been signed by over 100 countries, and it is hoped that it will lead to the protection of the world's fisheries and the preservation of the world's resources.

Another major threat to the world's resources is the depletion of the world's water resources. Water is a vital part of the environment, and it is essential for the survival of all life.

Water resources are being depleted at an alarming rate, and this is due to a variety of factors, including pollution, overuse, and climate change.

The depletion of the world's water resources is a global problem that requires the cooperation of all nations. The United Nations has established the World Water Conference, which is an international agreement to protect the world's water resources.

The World Water Conference has been signed by over 100 countries, and it is hoped that it will lead to the protection of the world's water resources and the preservation of the world's resources.



ぼく ペイちゃん

ぼくは 小学校^{しょうがっこう}の 三年生^{さんねんせい}、名まえは 小山新平^{こやましんぺい}という。

名まえから かんがえると 小さな 男^{おとこ}の子^こだと おもうかもしれな
いが 一メートル三十センチ^{いちメートルさんじゅうセンチ} あるから けっして ちびではない。

ひよろひよろっとした せいたかのっぼの からだの 上^{うへ}に まんま
るい かおが のっかっている。

だから ぼくのことを “まめもやし” っていうやつが いる。これ
は おとなに おおい。だけど “まめもやし” って よばれるのは き
らいだ。

なかよしの ともだちは ぼくを “ペイちゃん” って よぶ。新平^{しんぺい}の
平^{へい}から きた ぼくの あだ名^なだ。このほうが ぼくは ずっと すき
だ。

なんで このほうが すきかって きかれても うまく せつめい

できないけれど“ペイちゃん”って いわれると なんだか ほんとうの ともだちから なかよくしてもらっているみたいな 気もちになるんだ。

こんなことを いうと、ぼくには たくさん なかよしがいるみたいけど そうではない。

もちろん 学校の なかまなんかで ふつうに なかのいい子は たくさん いるけれど、ほんとの なかよしと いわれると、団地の 四かいに いる ヒロジくんや、大どおりの かどの ちゅうか料理屋の マサオくんなどしか ぼくには ともだちは いないようだ。

ほかの 男の子みたいに、ガールフレンドも いない。きよねんは 同級の レイコちゃんが ぼくの ガールフレンドみたいだった。けど、レイコちゃんが 美人なので ほかの 男の子が レイコちゃんになかよくしてもらいたくて、マンガの ふろくを あげたりなんかして、ごますりばかりする。そうすると、レイコちゃんも うれしそうな かおをする。

そういうのを みていると ぼくは おもしろくなくなって ある日、

レイコちゃんに、

「いろんな 男おとこの子と つきあうなんて、レイコちゃんは うわきだね

……」

っていった。そしたら、

「男おとこの子のほうこが みんな あたしのほうに よってくるんだもの。あたしのせいじゃないわ。それに うわきなんて いやらしいこと いうわね。へんな テレビばんぐみで おぼえたんでしょ。ペイちゃんこそ やきもちやきって いうんだわ。もう あそんであげないからっ……」
っていった、それから けんかになって ぼくの ガールフレンドみた いじゃ なくなってしまった。

ぼくは どうも ともだちを つくるのが へたなようだ。

そうだ、わすれてた。もうひとり なかよしだった人ひとが いる。もしかすると ぼくの いちばんの なかよしだったかもしれない。

それは となりの 二にかいに いる ジローさんだ。ジローさんは、ほんとうは、二十五にじゅうごさいくらいなのだそうだけど、もっと ずっと おじさんに みえる。



「くろうしたから ふけて みえるのさ……」

って、じぶんでも いていた。

ちびのくせに とっても おしゃれで、あかい チョッキを きたり、
きんいろの とけいを したりしているし、おへやには ステレオが
あって、そこに あそびに いくと、いろいろ ジャズの レコードな
んか きかしてくれた。

しごとはいったい なにを しているのか わからない。たいてい
おひるごろ おきて、夕方^{ゆうがた}から どこかへ でかけていく。

すこし いなか^おべんで へんな ことば^おけど とっても やさしい
人で ^{ひと}ときどき 大ど^おおりの かどの マサオくんの ちゅうか料理^{りようり}屋^や
で ラーメンを おごってくれた。

こないだは、そのことで ぼくは うちの おばあちゃんに うんと
しかられた。

「あんな バーテン^{おとこ}ふぜいの 男^{おとこ}と つきあうんじゃありません。教育^{きよういく}
てきに よくないのよ、ああいう 夜^{よる}の しょうばい^{ひと}の人は。それに
ラーメンを おごってもらうなんて とんでもない。そんな いやらし

いことをしては いけない。ラーメンなら あたしが じょうとうのを つくってあげる。もう あのひとと つきあうのは いけませんよ」
って、いったから、いまは ジローさんの へやに あそびに いかな
いことに している。

ぼくの 家は 東京の いなかだ。新宿から 小田急線に のって
ゆりがおかで おりて、そこから また あるいて 二十分ぐらい か
かる。

ここには 大きな 団地があるけど、ぼくの 家は 団地ではない。
団地の うらのほうの ぼろっちい 家だ。へやが 六つも あって
大きい 家だが、すんでいる人は たった 三人だ。

ぼくと、ぼくの おじいちゃんと、おばあちゃんだ。おじいちゃんは
画家で、ずっと せんから ここに すんでいるんだそうだ。

おじいちゃんは、小山晩山って いうんだ。晩の山なんて まっくら
で なんにも みえなくて、へんな 名まえだと おもうけど おじい
ちゃんに いわせると、はかりしれないほど おくふかくて とつても

いい 名^なまえなんだそうだ。

いつも おくの おざしきの まんなかに ひ、モーセン——つまり、あかい もうふなんだけど——を しいて、その上^{うへ}に 紙^{かみ}を ひろげて 絵^えを かいている。

おじいちゃんの かく 絵^えは、雲^{くも}と 山^{やま}と 川^{かわ}と 橋^{はし}の 絵^えに きま
っている。たてながの ひよろながい 紙^{かみ}に 上^{うへ}のほうから 雲^{くも}と 山^{やま}
と 川^{かわ}を かき、川^{かわ}の まんなかへんに 小^{ちい}さな 橋^{はし}を かける。その
橋^{はし}の 上^{うへ}に 人^{ひと}が いるときも あるし、いないときも ある。そして
たいていは くらい えのぐばかりで かく。

たまに ほかの いろを つかうことも あるけれど、ほんの ちょ
びつとだ。

だけど おとなってのは ふしぎだ。あんな まっくろな 絵^えを、
「晩^{ばん}山^{ざん}先生^{せんせい}の こんどの 絵^えは、しょうがい の けっさくですな。ハハ
ハ……」

なんて いった よろこんで かっていく おじさんが いるんだから。
おばあちゃんは 小^こ山^{やま}キエという 名^なまえだ。

ぼくは　ともだちに　おばあちゃんの　名^なまえを　いうのが　きらいだ。だって、おばあちゃんの　名^なまえを　いうと　いつも　ともだちは、

「キエーッ！　キエーッ、おれは　少年^{しょうねん}にんじやだぞ……」

なんて　いうんだもの。どうして　少年^{しょうねん}にんじやの　かけ声^{ごえ}と　にた

へんな　名^なまえを　おばあちゃんの　おとうさんは　つけたのだろう。

おばあちゃんは　むかし　音楽^{おんがく}学校^{がっこう}で　バイオリンを　べんきょうしたのだそう。いまでも　テレビで　バイオリンを　やっていると、くびを　こっくり　こっくり　やって、ちようしを　あわせながら、たのしそうに　きいている。

おじいちゃんが　べんきょうしていた　美術^{びじゆつ}学校^{がっこう}の　となりに　音楽^{おんがく}学校^{がっこう}が　あって、それで　しりあったのだそう。だから、おばあちゃん　は　むかし　おじいちゃんの　ガールフレンドだったって　いうわけなんだ。

「じゃ　おばあちゃんと　おじいちゃんは　れんあいけっこんなんだね」
って　おばあちゃんに　きいたら、すこし　こまったような　かおをして、

「いいえ、とんでもない。あたしたちは そんな ふいだらなことは
しなかったのよ」
っていった。

ふしだらっていうのは どういうことか わからないけれど、あんま
り きいちゃ わるそうだったから、それいじょう きくのは やめた。
ぼくのおとうさんと おかあさんのことを はなすのは、どうも
よわいんだ。どうしてかっていうと、ぼくと いっしょに いないから
さ。

おとうさんと おかあさんは りこんしたのだ。

「いろいろ ふくざつな じじょうが あってね、おまえの おとうさ
んと おかあさんとは りこんしたのよ。そのことに ついては、おま
えが おとなになってから くわしく はなしてあげるからね……」

おばあちゃんは このはなしを するとき、なきそうな かおをする。
そのかおを みていると、なんだか おばあちゃんが かわいそうだか
ら、このことも もう それいじょう きくのは やめにした。

とにかく ぼくは おかあさんのことは ぜんぜん しらない。そし

て、おとうさんは いま シンガポールに いる。名^なまえは 小山量平^{こやまりようへい}。ぼうえきがいしゃに つとめていて、ざい木^{もく}を きって かつてくる しごとなんだって。そうだな、一年^{いちねん}に いちどぐらいは 東京^{とうきょう}に かえ ってくる。

おとうさんが かえってくると とても うれしい。ぎんざの レス トランに つれていって おいしい ハンバーグを おごってくれるし、 きっさてんで とっても 大^{おお}きい いちごの がばがば はいった シ ョートケーキを たべさせてもくれる。

もうせん、ぎんざに いったときのことだ。

「新平^{しんぺい}くん、わるいけど ちよいと 一^{いっ}けん つきあってくれないか」
って おとうさんが いった。

おとうさんの そのいいかたが おとなに いうような いいかただ った。ぼくは そんなふうに いわれたのは はじめてだったし、もの すごく うれしかったので、男^{おとこ}どうしの たのみなら なんでも きい てあげるぞって 気^きもちになって、

「ああ いいよ。どこへでも いくよ」



って ぼくも おとなみたいに いったんだ。

ネオンが たくさん ついている ビルの かいだんを おりていく
と 地下^{ちか}に おさを のむ おみせが あった。ながい テーブルの
まえに ならんだ すごく せいたかのっぽの こしかけに よっこ
らしよっと のぼり、ぼくは おとうさんと ならんで すわった。
おとうさんは ウィスキーを のみ、ぼくは レモンジュースを た
のんだ。

とっても よいにおいのする こうすいをつけた おねえさんが
わきに やってきて、おとうさんと ぼくの せわをしてくれた。ぼく
は いままで、こんな よいにおいを かいだことは なかったし、こ
んな きれいな おねえさんを みたことも なかったので、ぼーっと
してきて、とても たのしい 気^きぶんだった。

そのばんは、ほんとうに かつこいい ばんだった。

ぎんざから、ゆりがおかまで ハイヤーで かえってきたんだ。その
車^{くるま}は 外車^{がいしゃ}で、ざせきには 白^{しろ}い カバーが してあり、ふかふかの
車^{くるま}だった。